

資料構成

- ・ 同朋大学教育方針
- ・ 同朋大学全体の各種ポリシー
- ・ 文学部仏教学科の各種ポリシー
- ・ 文学部人文学科の各種ポリシー
- ・ 社会福祉学部社会福祉学科社会福祉専攻の各種ポリシー
- ・ 社会福祉学部社会福祉学科子ども学専攻の各種ポリシー
- ・ 大学院の各種ポリシー

＜同朋大学教育方針＞

本学は、「同朋和敬」の精神を建学の理念とし、「広く知識を授け専門の学術を教授研究し、併せて人格を陶冶し、人類文化及び社会福祉に貢献する人間を養成する」ことを教育方針としています。

「同朋和敬」の精神は、「共なるいのちを生きる」とも言い表し、一人ひとりの「いのち」を大切にし、お互いの異なりを認め合い、敬い合うことで和し、真の平等たる人間関係（同朋）を実現していくことを願いとしています。

建学の理念に立脚し、自らを照らし出し、自己とは何か、人間とは何かを問い、そして自己と社会の関係を探求し、主体性・責任感をもって、現代社会・文化の諸課題と向き合い、心の豊かな人間社会の構築に向けて、生涯にわたり関わり続ける人になることを願っています。

＜同朋大学のアドミッションポリシー(入学者受入方針)＞

〔使命と建学理念〕

本学は、建学の理念である「同朋和敬(共なるいのちを生きる)」のもとに運営されている仏教系大学です。世界では、人種や言語、様々な特徴を持つ多様な人々が暮らしています。そうした人々が「共に学び、共に育ち、共に生きる」、そのことが実感できる大学であろうとしています。そのため障がい者にも優しい大学づくりを進めています。こうした大学の理念に共感し、この大学でキャンパス生活を送ってみたい、そういう学生を求めています。

そのため、学生には、人間としての強い倫理観と共感力、自発性と行動力が期待され、共通教育を基礎に、学部での専門教育が組み立てられます。

〔期待する学生像〕

本学は、文学部と社会福祉学部からなる小規模(入学定員 260 人)の大学です。だからこそ、学生間や学生・教職員間での人間関係が濃密な中で、充実したキャンパス生活を送り、関心がある問題に共にチャレンジし、新しい自分を発見したいと考えている人を求めています。

本学は、「卒業認定・学位授与に関する方針(DP)」において、知識・理解、汎用的技能、態度・志向性、総合的な学修経験と創造的思考力の 4 つについて具体的に定め、養成する人間像を明示し、このアドミッションポリシーでは、本学に入学してほしい方々への期待について明らかにしています。大学での学び(基礎力・応用力・実践力)に加え、自分の興味や関心に応じて、多様な人々と関わり、スポーツやクラブ活動にも懸命に取り組める人、そして広く世界や社会に関心を持ち、問題を掘り下げ本質をつかむ洞察力を身につけたい人たちを本学は歓迎します。

〔入学試験の基本方針〕

人間の多様な面での能力を図るため、本学では、指定校推薦、公募推薦、自己推薦、スポーツ技能推薦、AO 入試、一般入試、「センター試験」利用入試など本人の学びへの姿勢や能力、入学後の発展の可能性などを探るため、多様な形で入学者を選抜しています。

＜同朋大学のカリキュラムポリシー（教育課程の編成方針）＞

建学の精神と教育目的を踏まえ、ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）を達成するために、どのように教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するかについて、本学としての基本的な方針を次のように定めます。

1. 徹底した少人数教育を教育・指導の根本にすえ、一人ひとりの学生にあったきめ細やかな指導をする。
2. 少人数教育の利点を活かして、1年次よりゼミ形式の授業を行い、ノートの取り方やレポートの書き方、図書館の利用法など学修面での基本的姿勢や主体的に学ぶ姿勢を身につける。
3. 学科・専攻にかかわらず建学の精神、豊かな教養的知識、学びのスキルを修得する『教養共通科目』と、各学科・専攻にかかる専門知識・技能を学び専門性を深める『学科専攻科目』から編成する。
4. 教養共通科目は、「宗教」「外国語」「キャリア教育」「教養」「総合」「スポーツ」「情報」「国際」「ボランティア」「インターンシップ」「傾聴」等の区分を設け、幅広い授業科目から編成する。
5. 自分の学びたい分野を1年次から学べる教育課程を編成し、早くから専門分野の学びに触れる。学科専攻科目は、1年次から4年次まで導入的・原理的な科目から発展的・総合的なものまで、各学科・各専攻別に編成し、履修セメスターを指定して段階的に専門性を深めることができるように設定する。
6. 知識や理論を学ぶことに加えて、実習・演習・学外での研修を重視した教育課程で実践力を養う。経験と省察を重視したアクティブ・ラーニングの要素を多く取り入れるようにし、学びを深め、学びを豊かに展開できるようにする。
7. シラバスやナンバリング等により、授業の到達目標や成績評価基準、教育課程全体の中での位置・意義を理解しやすいようにし、学生自らが学びの内容を組み立てるのを支援する。

＜同朋大学のディプロマポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）＞

本学の教育方針に基づき、「人間とは何かを問い、そして自己と社会の関係を探求し、主体性・責任感をもって、現代社会・文化の諸課題と向き合い、心の豊かな人間社会の構築に向けて、生涯にわたり関わり続ける人になること」を最終教育目標としています。厳格な成績評価を行い、所定の単位を修得した学生に卒業を認定し、学位を授与します。卒業までに身に付けるべき資質を以下に示します。

1. 知識・理解

① 教養的知識

人類の文化・社会・自然についての教養的知識を修得するとともに、多文化・異文化に関する知識を修得している。

② 体系的な専門的知識

専門分野における基本的な知識を体系的に理解している。

2. 汎用的技能

③ 言語・数量的スキル

社会において活用できる技能（コミュニケーションスキル、数量的スキル、情報リテラシー等）を身に付け、活用することができる。

④ 問題解決力

さまざまな課題状況に適用できる論理的思考力・問題解決力を身に付け、活用することができる。

3. 態度・志向性

⑤ 自己管理とチームワーク

自ら律して行動し、他者と協働して行動できる。

⑥ 建学の精神を礎にした倫理観

「同朋和敬」の精神と、共に生きがいのある社会の実現のために積極的に行動できる。

4. 総合的な学修経験と創造的思考力

⑦ 総合力

獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自ら立てた課題に対して創造的な解決を図ることができる。

＜文学部仏教学科のアドミッションポリシー＞

〔使命と教育理念〕

建学の理念である「同朋和敬」の精神のもと、親鸞の視座を根幹として、浄土真宗の教えに深く人間を学び、広く仏教の歴史・文化・思想を学ぶことで、現代社会を健やかに生きていく力を持つ人が成長する教育に取り組むのが本学仏教学科です。

〔期待する学生像〕

1. 一人ひとりの「いのち」を大切にし、お互いの異なりを認め合い、敬い合うことで和し、真の平等たる人間関係（同朋）を実現していく「同朋和敬」の精神に共鳴する人。
2. 親鸞の視座を大切にして学び、仏教精神に基づき本当の意味で人間として生きることを真摯に問いたずねようとする人。

〔高校段階での修得が望ましい教育内容〕

1. 浄土真宗・仏教への素朴な興味を持っていること。
2. 読む・書く・考える基礎的能力を身につけていること。

＜文学部仏教学科のカリキュラムポリシー＞

仏教学科では、建学の理念である「同朋和敬」の精神のもと、広い知識と専門の学術を身につけ、浄土真宗・仏教の思想・歴史・文化を学び、それらを活用して現代社会に貢献可能な人間の養成を目的とするカリキュラムを編成しています。

1. 大学における専門的課題に取り組む力を身につけるため、まずは「基礎演習」や「教養共通科目」などの履修を通して、基礎力・教養力を養います。また、浄土真宗・仏教の精神を学修するため、「宗教と人間（親鸞と現代）」「宗教と人間（釈尊と現代）」を必修科目としています。
2. 「基礎演習」や「教養科目」を学修基盤として、真宗学・仏教学に関する概論・専門科目を学び、特に講義を通して専門的な知識を身につけます。学びの道筋として真宗学分野・仏教史学分野を置き、自身の問題関心を明確にしていくための指導を行います。
3. 3年次・4年次には真宗学・仏教史学のゼミを開き、また専門的な文献をテーマとする「講読演習」、僧侶としての実践性を磨く「教化学実習」を開講し、さらに史跡踏査、各種の現場におけるアクティブ・ラーニングを通して、仏教に関するさまざまな実践的能力を身につけます。
4. 浄土真宗・仏教に関する体系的な学修を経て、最後には各自でテーマを設定して卒業論文に取り組み、オリジナリティーを持った課題を提示し、その論理的展開を明らかにします。

＜文学部仏教学科のディプロマポリシー＞

仏教学科では、建学の理念である「同朋和敬」の精神に基づき、浄土真宗・仏教の思想・歴史・文化を学びます。そのなかで、一人ひとりが「共なるいのちを生きる」存在である確かな人間として自覚し、成長していける力を持つ人が育まれていきます。それらを可能にするカリキュラムを編成し、体系的、総合的に学ぶことができる教育を実践します。所定の単位を修得し、かつ以下の資質を備えた学生に対して卒業を認定し、学士（文学）の学位を授与します。

1. 知識・理解

- ①日本の歴史社会の特徴でありかつ普遍的にグローバルな性格を持つ「仏教」を通して、多文化共生世界を実現する力が身についている。
- ②浄土真宗・仏教に関する専門的知識を修得している。

2. 汎用的技能

- ③現代社会におけるさまざまな現場で、仏教精神に基づくコミュニケーションスキル（傾聴力・話力）を発揮することができる。
- ④僧侶もしくは仏教精神に基づく言動ができる者として、現代社会におけるさまざまな問題状況を把握し、適切な言動をすることができる。

3. 態度・志向性

- ⑤現代において浄土真宗・仏教の精神により「同朋社会」の実現に努めることができる。
- ⑥各自が身を置く共同体において「同朋和敬」の精神に基づく人間関係を形成し、協働して、さまざまな問題に向き合い続けていくことができる。

4. 総合的な学修経験と創造的思考力

- ⑦浄土真宗・仏教に関する教学的専門知識を根底に持ち、それを十分に活用して、現代社会における仏教の現場で起こるさまざまな問題に覚悟を持って取り組み続けることができる。

＜文学部人文学科のアドミッションポリシー＞

〔使命と教育理念〕

建学の理念である「同朋和敬」の精神に基づき、社会的な価値観に埋没しがちな個性の存在価値を大切にします。文学・歴史・思想・文化の各分野におけるアカデミックな教育を基盤に、人間そのもののあり方を考えるための普遍的な真理を探究するとともに、混迷する今という時代を生きるための「教養力」「思考力」を育むことが本学科の教育目的です。

〔期待する学生像〕

「日本文学専攻」「歴史文化専攻」「現代教養専攻」共に、普遍的な真理を探究することを目的とするのは言うまでもありませんが、現実社会に生きることをも意識し、両者の接点において自己発見をしてもらいたいと願い、次のような人を求めます。

1. 知的関心が高く、その充実に喜びを感じられる人。
2. 自己の内面に問いかけ、人間存在の価値を内証しようとする人。
3. 人文学を通して社会を見つめ、主体的に生きようとする人。

〔高校段階での修得が望ましい教育内容〕

1. 国語（現代文、古文・漢文）、地理歴史、公民、外国語（英語）に興味を持って積極的に学んでいること。
2. 読む・書く・考える等の基礎的能力を身につけていること。

＜文学部人文学科のカリキュラムポリシー＞

「同朋和敬」の精神を教育の根幹として、文学・歴史・思想・文化の各分野におけるアカデミックな教育を通じて人間そのもののあり方を考えるための普遍的な真理を探究し、今という時代を生きる「教養力」「思考力」を育むことを教育目的とします。

わたしたちの生きている社会は、時代的要求によって形成される表層的な現実と、その背景に普遍的に潜在している深層の真理とが関係性をもってできあがっています。同朋大学の人文学科では、表層に留まることを避けて真理の深みに踏み込み、現実と真理の接点に実在する自我の存在の価値を見いだして欲しいと願ってカリキュラムを組み立てています。

1. 基礎的な条件として、幅広い教養を修得するために、「教養共通科目」「外国語科目」を選択必修として設置しています。また、仏教精神を基盤とする本学の願いを時代感覚に即して理解してもらうための科目として「宗教と現代（釈尊と現代）」「宗教と現代（親鸞と現代）」も必修としています。
2. 高校までの「学習」に対して、大学での「主体的探究」への研究方法の変化を理解してもらい、徐々に専門性に転じていけるよう、「基礎演習（Ⅰ～Ⅳ）」を必修として設置し、段階を追って主体的な学びができるように配慮しています。
3. また大学での研究には、高校までのカリキュラム課程にはなかった新たな基礎的技術能力が必要になります。そのため「基礎学」を選択必修として設置し、学生の研究目的に必要な基礎技術が身につくよう配慮しています。
4. 本学科のカリキュラム構成の上で意識されているのは真の「教養力」「思考力」です。「人が何を考え、どう行動してきたか」という問題の本質を追究することで、「今」という時代に生きる自分を的確に見つめ、社会で活躍していくための力を身につけます。人文学の基盤となるそのような考え方を学ぶために、「現代教養概論（ⅠⅡ）」を全専攻の必修科目として1学年に設置しています。
5. 3 学年、4 学年ではゼミナール形式の「人文学演習（Ⅰ～Ⅳ）」を必修としています。学生は1 学年、2 学年での学修を経て、3 年次からは興味ある課題を主体的に見だし、その指導を受けるに相応しい「人文学演習」を選んでアカデミックな研究段階に入ります。
6. 4 年間の研究の成果として、卒業論文（課題）を必修としています。その作成過程では、「人文学演習」担当の教員が、小人数クラスの特性を活かして、履修者の進度に適応したきめ細かく丁寧な指導をします。そのため4 年次には「卒業論文指導」科目を用意しています。

＜文学部人文学科のディプロマポリシー＞

人文学科は、文学・歴史・思想・文化の各学問分野におけるアカデミックな教育を通じて人間そのもののあり方を考えるための普遍的な真理を探究し、「今」という時代に生きる自分を的確に見つめ、社会で活躍していくための力を育むことを目的としています。その目的を達成すべくカリキュラムを構成しているので、学生は、一つの専攻に所属しながらも、これらの分野を横断的に学ぶことが推奨されます。所定の単位を修得し、かつ以下のような資質を備えた学生に対して卒業を認定し、学士（文学）の学位を授与します。

1. 知識・理解

- ①多文化・異文化の共生する社会を理解し、人文学的教養として人類の営為に関する幅広い知識を身につけている。
- ②人文学の各専門分野における基本的な知識を体系的に理解している。

2. 汎用的技能

- ③文学・歴史・思想・文化等に関わる文献資料やデータを収集・読解・分析し、自分の知見を表現し、議論する能力を身につけている。
- ④取り組むべき課題を発見して考察する能力を身につけ、社会の諸問題についても対応することができる。

3. 態度・志向性

- ⑤文学・歴史・思想・文化に対する探究心を持って真摯に取り組み、立場の異なる相手とも意見交換のできる社会的対話力を身につけている。
- ⑥「同朋和敬」の精神にもとづき、さまざまな個を尊重した人間存在のあり方を考え、豊かな社会の実現のために積極的に行動できる。

4. 総合的な学修経験と創造的思考力

- ⑦人文学を通して獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自ら立てた課題に対して創造的な解決を図ることができる。

＜社会福祉学部社会福祉学科（社会福祉専攻）のアドミッションポリシー＞

〔使命と教育理念〕

「同朋和敬」の精神を建学の理念とし、本学部は1961（昭和36）年に文学部社会福祉学科として創立されて以来、この理念を礎に同朋福祉を実践してきました。1984（昭和59）年には社会福祉学部社会福祉学科となり、現在では「社会福祉専攻」「子ども学専攻」の二専攻を設けています。

社会福祉専攻では「社会福祉専門職」の養成を目指し、さらに社会貢献をも目指しています。本専攻では以下のことに意欲を持って取り組む人を求めています。

〔期待する学生像〕

1. 「同朋和敬」の精神に立脚し、社会福祉に関する基礎的な知識・技能を学ぶことができる人。
2. その知識・技能を活用して自ら課題を発見し、その解決に向けて探求することができる人。
3. それらの成果等を表現するために必要な思考力・判断力等の能力を身につけたいという意欲のある人。

〔高校段階での修得が望ましい教育内容〕

1. 高校までの基礎的な知識とともに読む・書く・考える等の基礎的能力を有している。
2. 社会福祉の支援を必要とする人々の生活に関心があり、ともに考える姿勢・意欲をもっている。
3. 社会的な諸課題や活動に関心をもち、主体的に行動するなど課題解決に向けた意欲を有している。
4. 他者とのコミュニケーションを大切にし、さまざまな人とつながり協働しつつ学修する心構えを身につけている。

＜社会福祉学部社会福祉学科（社会福祉専攻）のカリキュラムポリシー＞

社会福祉専攻では、「同朋和敬」の精神のもと、広い知識と専門の学術を身につけ、社会福祉・教育・心理・経済行政など、地域社会に貢献可能な人間を養成することを目的として、その実現のためのカリキュラムを編成しています。

自ら課題をみつけようとする姿勢や考え方、またそれら課題解決の方法や判断について体系的・総合的に学修が進められるようにカリキュラムを組み立てています。

学生の所属コースの学問的方法を学ぶために、専門教育科目・教養共通科目・自由科目を配置し、教養、自由の科目を履修することによって、専門性のみならず、応用力、洞察力等を身につけ、総合的な学びができるよう配慮しています。

初年次教育の充実のため、1年次より通年のゼミ（社会福祉基礎演習）を実施するなど4年間を通じた少人数教育によって、学生のコミュニケーションのレベルアップ、主体性の確立等を図っています。

2年次以降は「講義」「演習」によって福祉実践基礎力（ソーシャルワーカーとしての基礎力）を高め、3年次、4年次は「演習」「現場実習」を重視し、福祉実践力（課題を発見し様々な分野の人と協働・連携して実践的に取り組むことのできる力）を高めることをめざしています。

＜社会福祉学部社会福祉学科（社会福祉専攻）のディプロマポリシー＞

社会福祉専攻では、建学の理念である「同朋和敬」の精神を理解し、社会貢献可能な人間を育てることを目指しています。それらを実現するためにカリキュラム編成がなされ、その中で体系的・総合的に学ぶことができるような教育を実践します。所定の単位を修得し、かつ以下のような資質を備えた学生に対して卒業を認定し、学士（社会福祉学）の学位を授与します。

1. 知識・理解

- ①社会福祉専門職に求められる教養が身についている。
- ②社会福祉専門職に必要な福祉実践基礎力を修得している。

2. 汎用的技能

- ③社会福祉専門職に必要なコミュニケーション能力を備えていて、クライアントやその家族のみならず、他職種や関係機関とも適切にかかわることができる。
- ④社会生活を送るうえで何らかの生活課題に直面しているクライアントやその家族と向き合い、様々な分野の人と協働・連携することによって課題解決を図ることのできる福祉実践力を修得している。

3. 態度・志向性

- ⑤社会福祉実践に対する責任感と情熱をもち、実践分野にかかわらず生涯学び続け、成長しようという意欲を持っている。
- ⑥「同朋和敬」の精神を理解し、他人の痛みがわかり、ともに生きがいのある社会を目指していける豊かな人間性を体得している。

4. 総合的な学修経験と創造的思考力

- ⑦社会福祉専門職としての教養と専門知識・技術を身につけていて、それらを生活上の課題を抱えているクライアントへの支援に総合的・創造的に活用できる。

＜社会福祉学部社会福祉学科（子ども学専攻）のアドミッションポリシー＞

〔使命と教育理念〕

同朋大学は、「同朋和敬」の精神を建学の理念としています。「同朋和敬」とは、すべてのいのちは平等であるとの理解のもと、互いに敬い合って「共なるいのち」を生きていくという願いのことです。子ども学専攻は、2005（平成17）年に幼児福祉専攻として創設されて以来、この建学の理念を礎に、子どもの福祉・教育を実践してきました。本専攻は、子どもの育ちと学びを支え、また、子どもをとりまく社会や家庭への支援を行うことのできる、質の高い「子どもの専門家」を養成し、社会に貢献することを目指しています。本専攻では、この理念に基づき、以下のような人を求めます。

〔期待する学生像〕

1. 「同朋和敬」の精神に立脚し、将来的に「子どもの専門家」として社会で活躍するための基礎的・専門的な知識・技能を学ぶことができる人。
2. またその知識・技能を活用して、自ら発見した課題の解決および、一人ひとりの子どもの育ちと学びの支援のために必要な思考力・判断力等の能力を身につけたいという意欲のある人。

〔高校段階での修得が望ましい教育内容〕

1. 基礎的な読む・書く・考える能力を身につけていること。
2. 現代社会、公民、政治・経済に関心をもっていること。
3. 高校生活におけるボランティア・地域活動の学びを発展させ、主体性をもち、多様な人々と協働しつつ学修する態度を身につけていること。

＜社会福祉学部社会福祉学科（子ども学専攻）のカリキュラムポリシー＞

子ども学専攻では、仏教精神に基づく建学の理念である「同朋和敬」の精神のもと、広い知識と専門の学術を身につけ、乳児・幼児・児童等に関連する分野において社会貢献可能な人間を養成することを目的として、その実現のためのカリキュラムを編成しています。

1. 学生の自主性を最大限に尊重し体系的・総合的に学修を進められるようにカリキュラムを組み立てています。
2. 学生の所属コースの学問的方法を学ぶために、専門教育科目・教養共通科目・自由科目を配置し、教養、自由の科目を履修することによって、専門性のみならず、応用力、洞察力等を身につけ、総合的な学びができるよう配慮しています。
3. 初年次教育の充実のため、1年次より通年のゼミ（子ども学総論、子ども学演習）を実施するなど4年間を通じた少人数教育によって、学生のコミュニケーションのレベルアップ、主体性の確立等を図っています。
4. 幼稚園教諭、保育士等の専門職養成のため、一年次から徹底した実習教育を行い、講義はもとより、現場実習を重視しています。

＜社会福祉学部社会福祉学科（子ども学専攻）のディプロマポリシー＞

子ども学専攻では、仏教精神に基づく建学の理念である「同朋和敬」の精神のもと、特に乳児、幼児に関連する分野において社会貢献可能な人材の養成を目的としています。そのために、子どもの専門家としての知識、能力、基本的態度を身につけられるような教育を実践します。所定の単位を修得し、かつ以下のような資質を備えた学生に対して卒業を認定し、学士（社会福祉学）の学位を授与します。

1. 知識・理解

- ①子どもの専門家求められる教養が身につけている。人類の文化・社会・自然についての教養的知識や多文化に関する知識を理解している。
- ②子どもの専門家に必要な専門的知識や教育・保育技術が体系的に身につけていて、今日的な課題にも対応可能である。

2. 汎用的技能

- ③子どもの専門家として必要なコミュニケーション能力を備えていて、子どもと子ども、子どもと保育者、子どもと地域、子どもと保護者、さらには保護者と保護者を結びつけることができる。
- ④育ちゆく幼いものへの共感と温かな目を持って子どもと向き合い、一人ひとりを大切にその育ちを支えることができるとともに、問題がある場合には素早く発見し、的確な解決を図ることができる。

3. 態度・志向性

- ⑤子どものための専門職であることに対する責任感と情熱、他者と協働して行動する意識をもち、自らも生涯学び続け、成長し続けようという意欲をもっている。
- ⑥「同朋和敬」の精神と、ともに生きがいのある社会の実現に貢献し続けようとする態度を身につけている。

4. 総合的な学修経験と創造的思考力

- ⑦子どもの専門家としての教養・専門知識・技術・態度等を身につけていて、これらを自ら立てた課題の解決、一人ひとりの子どもの育ちと学びの支援に統合的に活用することができる。

＜大学院のアドミッションポリシー＞

本学大学院人間学研究科は博士前期課程(仏教文化・人間福祉・臨床心理の 3 分野)と博士後期課程(仏教文化・臨床心理の 2 分野)からなっています。分野ごとに入試を実施し、以下の能力等を持っている方を求めています。

1. 学部での専門知識・技能を踏まえ、当該専攻の研究に必要な専門知識・技能を有している方
2. 研究課題に対し論理的思考力に基づき、専門的知見から自らの考えを発表し、文章化することができる方
3. 大学院で学び探求し、研究したことを、社会に還元していくための熱意、意欲、関心、態度を有する方

＜大学院のカリキュラムポリシー＞

＜人間学研究科博士前期課程＞

博士前期課程のカリキュラム編成は、履修モデルとして仏教文化分野・人間福祉分野・臨床心理分野を設定し、各分野に応じた科目を履修できるように編成しています。いのちと向きあい、その意味を問い実践する「仏教文化」、人と環境の接点に介入し、暮らしを支える「人間福祉」、人の心や行動を科学的に理解する「臨床心理」の3分野が、それぞれの専門性を高めつつ、学際的協働・連携を深め、心豊かな「人間」性を持つ高度な専門職・研究者の養成に取り組めるようなカリキュラムを構成しています。

1. 「研究指導科目」では、特殊演習で個々の研究分野について研究と論文作成の指導を在学期間継続して、原則として修了まで同一教員のもとで受けることとして、論文作成を重視しています。
2. 「研究基盤科目」では、建学の理念である仏教精神に基づいて、個々の研究活動の根底に共通する人間学を教授します。
3. 「隣接複合科目」では仏教文化分野、人間福祉分野、臨床心理分野の関連科目を多く開講し、研究領域の横断的な学習と幅広い応用発展を可能にします。
4. 学部の科目を自由に履修できるようにして、研究の基礎の再確認ができます。

＜人間学研究科博士後期課程＞

博士後期課程におけるカリキュラム編成は、前期課程において展開してきた仏教文化領域、臨床心理領域の研究をさらに高度化するため、前期課程との継続性と専門性を考慮しつつ、最近の当該専門分野における教育研究の動向や、社会的要請などを十分勘案して、絞り込んだ内容にしてあります。

具体的には、特殊演習において個々の研究を個別に指導します。また、学内外の学会等での研究発表を奨励し、全学生、全教員参加の論文発表のための指導の時間を設けています。

そのほか、課外で学生をTA・RA、仏教文化研究所の嘱託研究員に委嘱、また心理臨床センターの相談員に登録し、教育や研究リサーチの指導、実習を合わせて行っています。

また、福祉現場で活躍する者のリカレント教育や、さらなるキャリアアップを望む者にふさわしい教育研究内容を用意しています。具体的には、社会人の学習条件に配慮して6時限目(18時30分～20時)を設け、土曜日にも開講しています。

＜大学院のディプロマポリシー＞

大学院研究科は、建学の理念である親鸞の同朋精神と聖徳太子の和敬の精神にのっとり、仏教文化、人間福祉、臨床心理を深く探究し、心の豊かな人間社会の構築に貢献する、深い学識を備えた研究者及び高度な技能を有する専門的職業人を養成することを目的とします。その達成のためにカリキュラムを編成しており、学生は修了までに所定の単位を取得し、論文を作成し、その審査に合格した者に修了が認められ、かつ以下のような資質を備えたものに修士（文学、人間福祉、心理学）及び博士（文学）の学位を授与します。

①専門分野における高度な知識

文献・史料・実験・調査データ等を駆使して様々な考察を行う能力を身につけている（博士前期（修士）課程）。学会発表や学術雑誌への論文投稿も行なえる高度な研究者としての技能を身につけている（博士後期課程）。

②専門的知識を実践的に展開する応用力

専門的知識を実践的に展開し、現代社会の様々な問題に対する解決策や提案を示す応用力、職業人としての技量を身につけている。

③建学の精神を礎にした倫理観

建学の理念である「同朋和敬」の精神に基づき、他者を理解し、個を尊重した豊かな社会を実現するための価値観、倫理観を社会に訴える主体性をもつ。